



TSUI
(革)

その人のことを考え、
足を触り、感じ取る。
丁寧な作業と
変わらない気持ちが
一足に込められる。

日本で唯一ある靴作りが学べる浅草の訓練校で2人は出会い、共に靴作りを学んでいた。旦那さんの和希さんは、卒業後、義肢装具を作る会社に入社。一人一人違う足の形に合わせた靴を作り、経験を積んでいた。

一方奥さんの里佳さんは、紳士靴メーカーに入社し、企画・営業を担当していた。



まずは型紙をおこし、
革を切っていく！
型紙はもちろん、1人1人違うもの。

一人一人の足に合わせ、セミオーダーメイドの靴作りを夫婦で行なっているTSUI。ツイ履きたくなくなってしまいうような靴、靴はツイになっただというのが名前の由来だ。自宅の一部を工房として使い、川越にお店を構えている。

「なんとかなる！」と前進を急ぐ里佳さんと心配性の和希さん。どうやって進むべきか考えぶつかり合いながらも、見ているのは同じ道の先だった。

そんな時、知り合いからイベントへの出店の誘いがきた。これが大きな転機となった。



TSUIの靴の特徴である
かかと部分に滑り止めの
「T」を縫い付けているところ！

和希さんの装具作りで培った確かな技術。里佳さんのメーカーでの経験や人脈がTSUIにとって、のちに大きな力となる。

独立に向け先に里佳さんは退社。オリジナルの木型作りや材料集めなどを始めた。

一方和希さんは勤めを続けながら帰宅後に靴作りをする日々。一緒に靴を作れるのは帰宅後のわずかな時間だけだった。

(里佳さん)「会社辞めればもっと靴作れるじゃん！」

性格もやり方も違う二人だが、目指すところは最初から変わらない。履きごこち第一に、定番になる靴。流行にとらわれないう、ベーシックな靴。

お互いを認め合い、日々誰かの為の一足を作り続けている。自分の足にあった靴というのは本当に格別だ。初めての革靴をオーダーなんていうのも最高にかっこいいと思う。



好きな革を選び
異素材や色違いのものを
組み合わせる事OK!

死に物狂いでどうにかオリジナルの靴を完成させ、緊張のなかでの初出店。イベントでの反応は思いのほかとても好評だった。

そして、その時のお客さんの声をきっかけに川越でのお店がスタート。なんと、その間わずか半年。里佳さんの相変わらずの勢いが大きな前進になった。

これを機に二人の靴作り一本の生活が始まった。

